

4. 小児科領域における Renogram の応用

新大 小児科 岡田 敏夫

1) Renogram 曲線の年齢的差異

乳児期から学童期に至る正常小児につき検討した。3才以上では Renogram 曲線上ほとんど差異は認められないが 0才～3才特に 0才～1才において Renogram 曲線は一定の傾向を示さない。これは Renogram 実施上の困難さもあるが量的に $0.4\mu\text{C}/\text{kg}$ では正常曲線は期待し難いように思われるがなおこの点検討中である。

2) 体位性蛋白尿陽性児の Renogram

体位性蛋白尿陽性児につき 前弯負荷時の Renogram を施行した。曲線は左腎排泄遅延像を示すものが多く少数例に右腎あるいは両側排泄遅延像がみられた。

体位性蛋白尿の発生機序として現在腎うっ血説が有力であるがこの点解剖学的にも腎うっ血説を肯定する所見ではないかと思われる。

3) 起立性調節障害 (以下 OD と略) 児の Renogram

OD 症状そのものにも軽いものから重いものまで存在してこれが腎循環動態におよぼす影響の大きさにより曲線に種々の型を表わしてくるが、きわめて強い症状を示したときの曲線は水平横這い状態となり両側の著明な排泄遅延像を示す。またその回復状態の遅速により曲線もいろいろでこれより回復状態の程度が窺われるように思われた。またきわめて強い症状の出現する場合には Renogram 曲線から大体推測されるように思われる。

5. 泌尿器科領域でのレノグラムの臨床的価値

慈恵医大 泌尿器科 石橋 晃

泌尿器科領域でのレノグラムの臨床的価値を、主として以下の項につき述べる。

(1) 水腎症の予後

泌尿器科領域で、しばしば遭遇する水腎症の予後は IVP などから判断することが多い。演者は臨床経過に併うレノグラムの型 (N, M₁ など) の変化を IVP の機能および形態の変化と比較し、予後を察知する方法を検討した。

(2) 潜在腎機能

通常の IVP で造影されない腎、いわゆる non visualizing kidney の潜在機能検査としてのレノグラムの価値を、他の検査法と比較検討した。

(3) その他

時間が許せば、基礎面として正常型の判定、曲線各部の名称および測定装置の統一化、臨床面として他演者への追加の形で、移植腎機能などの点につき述べたいと思う。

6. 子宮頸癌とレノグラム検査

信州大 岩井 正二 宮坂英男

当教室では、子宮頸癌患者について、治療前および治療後、更に退院後定期的にレノグラム検査を行ない、これまでに次の成績をえている。

(1) 子宮頸癌患者には、しばしばレノグラムに異常所見がみられ、特に進行期との間に密接な関連性が認められる。

(2) 子宮頸癌手術後と放射線療法後の悪化例を比較すると、特に手術例での一時的な悪化が注目され、放射線療法ではその変化は比較的軽度のようなのである。

(3) 尿管腔瘻例およびその修復手術例では、レノグラム上にも高度の変化が認められ、瘻側の判定には不可欠な検査である。

(4) 再発例、定期診察例で、骨盤内に変化のみられる症例では、レノグラムにも変化がみられ、再発の診断に有力な根拠となしうる。

最近これらの症例も増加したので、再検討の上、子宮頸癌診療に対するレノグラムの価値を評価してみたい。

7. 腎移植とレノグラム

東大 泌尿器科 岸本 孝

東大泌尿器科教室で同種腎移植を臨床に応用して以来約3年になるが、現在までに9症例10腎の移植が行なわれている。

われわれは腎移植施行全例に、経時的に ¹³¹I-Hippuran によるレノグラフィーを施行し、移植腎の機能の推移と拒絶現象をふくむ各種合併症の早期発見につとめている。

腎移植の臨床では腎機能の低下をもたらす種々の合併症として拒絶現象をはじめ、尿管閉塞、腎動脈閉塞あるいは狭窄などがあり、これらを速かに鑑別することが極めて重要である。自験例を中心に、これら合併症とレノグラムおよび腎機能との関係について検討した結果を報告する。